



【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み
新市民の声を集める 2

まちづくりワークショップ*

住民自身で、将来のまちづくりを考えました

*ワークショップ：参加型検討会

「自分の住むまちの将来は、自分たちで考えよう」

8市町村に居住し、それぞれの地域で地域づくりの活動をしている人、新市の将来像に関心のある人50人が集まり、7グループに分かれて新市の将来像を考えていきました。ワークショップでは年齢や職業もさまざまな人が一堂に会し、活発な意見交換が行われました。予定の4回では時間が足りないというグループもあり、自主的に集まって話し合いを継続するなど、熱心な検討の結果、7つのグループそれぞれから新市の魅力ある将来像が提案されました。

◆実施概要

【開催目的】

広く新市民による意見交換・検討を行う場としてワークショップを開催し、「合併するとしたらこんなまちになって欲しい」をテーマとした都市将来像づくりを行った

【参加者】

各地域（8市町村）で地域づくり等の活動をしている方、都市の将来像に関心のある方／50人

進め方と基本プログラム

まちづくりワークショップでは、まず参加者の地域が偏らないように7つのグループに分かれて、グループ単位で、＜話し合いの進め方＞×＜自分たちのグループのアウトプット＞を考え、独自に進める方法で行いました。また、毎回、最後に“気づいたこと”“うれしく思ったこと”“不満に思ったこと”“言い残したこと”を振り返りシートに書いて次の開催の対応課題とすることで進めました。

第1回（4/17） ●ワークショップのテーマ・進め方の検討

第2回（5/2） ●地域の宝物・自慢・個性 ●新しい地域のイメージ

第3回（5/13） ●地域の素材をどうつなげるか ●こんなまちにしたい

第4回（5/21） ●まとめ結果発表



将来への期待や新市のあるべき姿 (グループ別まとめ)

グループ1

「命を育み、命のつながりと一緒に育つまち」

現在の市町村の枠はいらない。なぜならば、私たちは今変わろうとしているのに、再び行政区分が同じ枠しかないのであれば、私たちは変わろうとしてもなかなか変わらない。それを補うのが、「地区」の自立である。日常生活に支障をきたす恐れのある高齢化した社会では、小さな地域の相互の支えが必要になる。そのためにも、「地区」が自立した活動を直接行う必要がある。

グループ2

山と里と都市の調和

1. やま…里山の教育等への活用、自然のままに残し、300年後の世界遺産
2. むら…品質の高い農産品を供給し、地産地消の促進
3. 都市…都市機能の充実による商業雇用の充実

地域の個性を活かすために

1. 住民の意識改革
2. 行政制度（住民自治）の改革
3. 地域循環社会ネットワーク
4. 地域の役割分担「自分の住むまちの将来は、自分たちで考えよう」

グループ3

「ほたるが住めないところはまちじゃない！」

→残すべき自然環境は残そうという意味。

「世界に向けて、子供たちに誇れる

地域自慢のできるまちにしたい！」

→「食」「住」が充実しているという住み心地のよさを世界にアピールしたい。

「食」は、地産地消を実践するまちにしたい。

伝統農法の野菜を特産物にし、活用したい、子供たちに給食などを通じて伝えたい、各地区にある良い「食」を一同に集めた物産館をまちの顔にしたい。

「住」は、バランスのとれたまちにしたい。

文化・伝統（祭り、それに伴う伝統技術）が息づき、最先端技術なども盛んで、そのバランスがとれたまちにしたい。

「交通手段を確保」できるまちにしたい。

交流するにも交通手段がなければ交流が困難な側面がある。コミュニケーションは顔が見えることが大事。だから、交通や道路整備がされていることは大事。

グループ5

人が育ち、住んでいる人、出ていった人が “わ”をつくっていきけるまち

- 今ある小さなコミュニティが活（生）き続けるまち
…村祭りetc.
- みんなが集まれる場所と喜びのあるまち
…大きな祭りetc.
- 心にきざむ、ものがたりができるまち
…伝統・教育etc.
- ゆったりできるまち、受け入れてくれるところ（場）があるまち…自然・田園・街並み・産業etc.
- やりたいことができる、したくない人はしなくてもよいまち…やわらかな住民参加・行政のしくみ

・ストレスのたまらないまち ・帰ってくるのが楽しみなまち

グループ7

「生命を大切にして・地域資源を活かす・ 地域のパワーアップ大計画」

- 越路町のすばらしい米づくりの技術を地域全体で行えば、質・量ともにものすごい米どころ・ブランド米ができるという夢からお互いのまちにある強みを共有すれば地域全体がより発達できると考え、そのために必要な「情報交換・共有・発信」を提案する。
- 高齢者の豊富な体験や知恵を十分に活かし、特に子育てに役立てたいという「高齢者資源」の活用から、行政サービスにすべてを頼らない「住民参加」を提案する。
- 住民の考えを直接的に行政施策に反映させるための「目的税」の検討も提案したい。

グループ4

パッチワーク都市の提案

パッチワーク布みたいに、各地域がその個性や特色を維持しつつ、全体でまとまりのある地域としたい。

▽各市町村の色のイメージ

長岡：ゴマ 見附：黄色 栃尾：黒（炭焼き）
越路：黄金色 三島：緑 小国：緑+赤

- 自然・田んぼなどがイメージの柱になりながらも、その上で医療・教育が充実した都市イメージ。
- 行政の枠を超えて調整しあうことを大切にする。（近い学校に通えるように・・・など）

グループ6

① 私たちの地域で大切なもの

<古き良き時代を伝える→ゆっくリズム>

- ・ものを大切にする心
- ・近所付き合い=小さなコミュニティ
- ・自然・人の温かさ ・自分の地域にしかないもの

<進め方として>

- ・高齢者の力の活用
- ・自ら考えられる知恵をつける施策
- ・地産地消

<平行して進めるもの>

- ・新潟県の中心都市の役割 ・地域間を結ぶ公共交通
- ・都市機能の整備 ・県庁の誘致

② 新しい長岡地域のテーマ

- 「深呼吸してごらん、街（そこ）に元気の素があるから」
- 「未来を見つめ、育てる街」
- 「東日本最大の“歓楽街”があってもいい？」
- 「古きを尊ぶ未来都市」

メッセージ

- 各市町村を知ることが新しい市を考えていくうえで必要。
- 楽しい人が多い。合併したらもっと楽しいなあ。
- 各市町村のすばらしい歴史を感じました。
- どのグループも地域の個性を大切にしたいと感じている。
- 新市に向けて、住民の意識改革をどのようにして広めていくかが課題だと思います。
- 顔を見て話し合うことが元気の素だなぁと思いました。
- こんな会議を各市町村でもぜひやってほしい。

